

患者負担増ストップへ

国会要請で署名約1万筆を提出

新たな患者負担増や患者申出療養制度の創出を盛り込んだ「医療保険制度改革関連法案」の国会への上程が3月上旬に見込まれる中、保団連・協会は2月19日に議員要請行動と国会内集会を開いた。協会から下井戸昭介副理事長はじめ理事・役員ら14人が参加し、法案の十分な審議と廃案、社会保障費の総枠拡大を大阪選出の国会議員に要請した。

NO! 患者負担増
署名に託す願い

通院できるように

城東区・辻本 勝先生



「署名の数が政治を動かす力になる」と語る辻本勝氏

ここ数年、3割負担の患者さんが減っている。給与減、保険料増、消費税増で生活が苦しくなり、治療に通いたくても動かしにくい。

通えない状況が広がっていることを実感する。解決策の第一は窓口負担の大幅軽減だが、安倍政権は患者さんの負担を増やすことに熱心になっている。負担増を食い止める。窓口軽減を実現するには、圧倒的な数の署名を突きつけ、国会議員を動かすしかない。

そのために私は患者さん1300人に署名用紙を郵送した。診療中も麻酔の効果待っている時や、セメントのセットの時間などを使って協力を訴えている。

辰巳孝太郎参院議員（共産）、清水忠史衆院議員（同）と懇談し、患者の窓口負担の現状や法案の廃案を訴えたほか、「学校歯科治療調査」の内容を説明した。「むし歯があっても治療を受けられない子どもたちが残されている現状を何とかしなければいけない」（辰巳議員）などの声が寄せられた。「新たな患者負担増をやめ、



上：清水忠史議員（中央）
下：辰巳孝太郎議員（左端）

「患者負担増」国会内集会が開かれ、医療保険制度改革関連法案についての厚労省交渉が行われた。集会には、

窓口負担の大幅軽減を求める請願1署名は、衆院では宮本岳志議員（共産）2000筆、清水議員（同）2500筆、参院は辰巳議員（同）4886筆、山下芳生議員（同）569筆を手渡し、あわせて9955筆を提出した。正午からは議員会館内で「ストップ患者負担増」国会内集会が開かれ、医療保険制度改革関連法案についての厚労省交渉が行われた。集会には、

基軸 「大阪都構想」 偽りの実態 ②

大阪学院大学准教授 梶哲教

現在の大阪都構想が登場したきっかけは、橋下

大阪市長が2008年の府知事就任直後に「財政再建」を旗印に取り組んだ、大阪府市の水道事業統合策や、大阪府庁を大阪市保有の旧WTCビルに移転する案が、府市連携の不調から失敗し

「二重行政」は不都合か

看過できない「都」の肥大化



い権限をもつ大阪市との連携が不調となると、両者の政策がいずれも滞ったり、府市がムダに同種の施策を重ねる「二重行政」が生じたりするといふ。そこで、大阪市のもつ主要な権限を府に統合し、府市の併存から生じ

る非効率を解消する必要性が、都構想の意義として強調される。つまり、都構想は橋下市長なりの「小さな政府」をめざす政策の一環である。しかし、「二重行政」である。また、「二重行政」の非効率性は、地方自治が都道府県と市町村の二層制である以上、ある程度は当然のこととして想定される。両者の緊張関係から生じる非効率性、経費の削減につながるのかどうかは疑わしい。

橋下市長が二重行政と主張するもの

大阪府	大阪府	大阪市	大阪市
障がい者交流促進センター	福祉	障がい者スポーツセンター	
府立急性期・総合医療センター	医療	住吉市民病院	
府立公衆衛生研究所	保健・環境	市立環境科学研究所	
府立中央図書館	文化	市立中央図書館	
府立体育会館	スポーツ	市立中央体育館	
府立大学	大学	市立大学	

「二重行政」を排除するため、

署名にご協力ください

「ストップ患者負担増」を訴える請願署名に取り組んでいます。署名用紙の追加は事務局までお願いします。

確定申告が訪れる春が今年も納税者である。「何かお陰や。税金が軍事費に使われてうれしいのか」と横から老妻が不満そうに言う。「大病せなんだからの納税や。ありがたいことやないか。お前が入院した年なんか情けないことに税金戻ってきたぜ」

今日の数字
6週間
患者申出療養の審査期間。約半年かけていた従来の審査を短縮し、安全性の確保が困難に。